

釈放後の新たな日常



けるのは耐え難いほど正義に反する」として、再審開始と死刑・拘留の執行停止を決定。即日釈放された。ただ、検察側が即時抗告したため、現在も死刑囚である。

「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」の金聖雄監督が、本作で見つめるのは、姉の秀子さんと共に始めた新たな生活だ。

家の中を延々と歩き回る姿。読めない表情。頭の中の「自分の世界」の存在を感じさせる言葉。不可思議なつぶやき。彼はどうやら硬く分厚い殻の中にいて、それが半世紀近くに及んだ拘禁生活の中でできたものであることは想像に難くない。

が、姉や周囲に支えられ、ほんの少しずつ殻にひびが入る。歩幅が変わる。笑顔がのぞき始める。さらにはファイターとしての顔も。

金監督は、一人の男性に堆積した時間、そして新たに重ねられていく日常を静かに見つめながら、人間にとっての一刻一刻の重みを映し出す。あるがままの現在が、獄中日記の抜粋と共に心に残る。胸を突く。1時間59分。ポレポレ東中野。

(恩田泰子)

時を重ねる、その意味を深く見つめるドキュメンタリー。それはすなわち、袴田巖^{いわた}＝写真^{いわた}という人物を見つめる、ということだ。元ボクサー。まもなく80歳。そのうち48年を獄中で過ごした。1966年、静岡県で一家4人が殺害された、いわゆる「袴田事件」の元被告。強盗殺人罪などで起訴され、裁判では一貫して無実を訴えたが、80年に死刑が確定。が、2014年、静岡地裁が、捜査機関による証拠捏造^{ねつぞう}の疑いを指摘した上で、「これ以上拘置を続